

○令和3年度 教育事業

「ボランティアセミナー」(R3.12.18(土)～19(日))



国立大雪青少年交流の家教育事業

ボランティアセミナー

子どもの成長を支えたい。
そのために必要なことは何だろう。

期 日：12月18日(土)～19日(日) 1泊2日
対 象：ボランティア活動に興味のある高校生や大学生、専門学校生、一般 20名
参加費：3,040円 ※オンラインのみの参加者は無料
参加方法：①現地参加で、他の参加者と共に学びます。
②オンラインで家などから、パソコン等で参加します。

詳しい案内は裏面へ

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taisetsu Youth Friendship Center

【申込方法】
参加を希望する方は、右のQRコードを読み込み、WEBからお申込ください。

<申込フォーム>

◆目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに必要な技術や知識等を学ぶとともに、青少年教育施設でのボランティア活動に対する意識を高める機会とします。

◆参加実績(定員20名)

参加5名

- ・道内大学 3名
- ・上川管内高校 1名
- ・市町村教育委員会 1名

ボランティア2名

◆プログラム

①【講義①】子供たちの「いま」を知ろう

講師：国立大雪青少年交流の家次長

参加者は、交流の家の事業に参加する子供たちについて理解を深めるため、グループワークで参加者が思う子供のイメージをまとめ、意見交換しながら、今の子供たちの特徴をまとめた。

その後、一般的に言われる子供の特徴や、現代的な課題に対して体験活動を推進していることを学んだ。

②【講義②・演習①】安全の基礎を学ぼう

講師：北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷 弘志 氏

このコマでは、ボランティア活動を行う上で必要な安全管理について理解を深めるため、野外活動でよく起こる傷病とその対処方法について講義を受けた。

また、リスクマネジメントエクササイズをグループごとに行い判断する場合に様々なリスクを考える必要があることを学んだ。

③【講義③】交流の家や施設のボランティア活動について知ろう

講師：国立大雪青少年交流の家職員、法人ボランティア

青少年教育施設の設置目的や事業の取り組みなどを交流の家職員と当施設で活躍している法人ボランティアから講義した。



④【演習②】子供の成長を支えるために大雪プログラムで学ぼう

講師：国立大雪青少年交流の家職員

参加者は、スノーシュー活動や焚き火体験を通して、冬の外遊びの楽しさを感じるとともに、どんな事業もねらいに合わせた活動やかかわりを行っていることを学んだ。



⑤【演習③】ボランティア活動の意義と心構え

講師：国立大雪青少年交流の家職員、法人ボランティア

「ボランティア」のイメージについて意見交換したうえで、一般的なボランティアの定義を学び、より理解を深めた。また、活躍している法人ボランティアからボランティア活動で大変だったことやボランティアを続けている理由等を聞き、参加者はボランティア活動への心構えを学ぶとともに活動への意欲を高めた。



◆事業運営・企画のポイント

○講義等を聞くだけでなく、自分の考えを話したり、他の参加者や先輩の法人ボランティアと意見交換ができた等、主体的に学べるような活動の展開になるよう企画した。

○アットホームな雰囲気づくりのため、先輩の法人ボランティアに事業運営と参加者の生活面のサポートを担ってもらい、参加者が安心して活動できるような運営体制とした。

◆参加者の声

○安全管理の講義内容、現場の方々からの生の声からボランティアに必要な知識を学べた。

○自分の中で、ボランティアについて色々な意見を聞いて改めて考えるきっかけができたのはとても大きなことでした。今後、様々な活動をしていく上で今日のことはずっと役立つだろうと感じています。

○自分と異なる活動をしたことのある人の体験やそこで考えたことを聞いたことで、今後の生活や活動で考えることや感じるものが少し変化するんだらうと感じた。

◆事業の成果と課題

○参加者のアンケート結果から、ボランティア活動に必要な知識や技術等を十分に学んでもらうことができた。

○すべての参加者が次にボランティアをする機会があれば参加したいという回答があり、参加者のボランティアに対する意欲を高めることができた。

●参加者同士が意見交換する場を設けたことはとても好評だったが、グループが1つしか作れなかった。参加者をしっかり集め、複数のグループがあるとさらに出てくる意見に広がりがあり、参加者の学びにつながると考える。

